

海外航空機向け強化

大和合金 売上高比率、早期に2ケタ

特殊銅合金メーカーの大和合金(東京・板橋、荻野茂雄社長)は、海外航空機メーカー向けの販売を強化する。従来は国内の自動車や航空機向け販売が中心だったが、昨年の景気悪化で同分野の需要が急減し、一時は生産がほぼ半減した。これまで手薄だった分野にも販売を広げること、企業体質の強化を図る。現在、航空機向けが売上高に占める割合は数%程度だが、同社では早期に2ケタへの引き上げをめざす。大和合金は、クロム銅やアルミニウム青銅、ペリリウム銅、NC合金などの特殊銅合金を、溶解工程から鍛造などの加工工程まで一貫して生産している。また銅にニッケルやクロ

ム、シリコンなどを添加して開発したNC合金は、熱伝導性と強度の高さが需要家から評価され、ペリリウム銅

の代替材として用途が拡大。現在、F119のエンジン用自動車エンジンの摺動部分や航空機の着陸緩衝装置(ランディング・ギア)の部品素材などに使用されている。

同社は自動車関連分野向けの比率が売上高に占める割合が大きいため、2009年の景気悪化の際、自動車メーカーが生産調整を行った影響を受け、生産量が大幅に落ち込んだ。現在の生産(生産の中心を担う三芳合金工業の生産分を含む)は前年同期比70~80%増の月約1100トの水増しまで回復したが、今後は航空機や環境・エネルギー産業など自動車以外の分野の比率も上げることで、リスク分散を図りたい方針。

とくに航空機は、これまで国内メーカー向けの販売が中心だったが、今後は並行して市場が拡大している海外向けにも販売する。ランディング・ギア以外の部材向けでも、NC合金を中心に拡販をめざす。6月にはベルリンで開催された展示会に、自社製品を出展した。